

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。  
一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

## ★出掛ける前に必要な小物を購入

### お買い物リスト

ウミタナゴ、サヨリには…

道糸 **ナイロンラインの1～1.5号**

しなやかで伸びがあるナイロンラインを使います。

シモリウキ **5つ程度**

視認性が高い、赤、黄色、オレンジなどを選び、パチンコ玉からビー玉くらいの大きさに揃えましょう。

ガン玉 **セット1つ**

ウキの浮力調整や潮の早さなどで号数を変えます。3B～2号程度までが入ったセットを購入して、さまざまに対応できるようにしましょう。

ヨリモドシ **2～3個**

10号前後の大きさを使います。通常は10個くらい入ったパック売りです。

仕掛け (ハリス付きのハリ)

1、2種類

ウミタナゴは掛り  
ハリス0.6～0.8号で袖ハリの4～6号を使うのが一般的です。ひとつに10本程度の仕掛けが入っているので、1度購入すれば2、3度釣行できます。

エサ **大粒アカアミ1パック**

これで1日楽しめます。小さめのオキアミでもOKです。

コマセ (マキエサ)

アミエビ1ブロックに、メジナ用の配合エサ

集魚用のコマセを使って、効率良く仕留めるのが基本となります。

イワナ&ヤマメには…

仕掛け **2～3種類**

道糸からハリ、そして目印付きの完全仕掛けが便利です。道糸の太さは、0.1号～0.3号までを用意して、釣れる魚の大きさに使い分けましょう。根掛かりで切れることがあるので、3～4個は準備です。

その他あると便利グッズ

「フィールドブライヤー」や「エサ箱」などは、「ゴールドマニュアルブック」の25ページ～を参考にしよう。

釣行前日までに要準備!  
疑問があったら釣具店に!!

ガン玉 **セット1つ**

川の流れの速度や深さなどで重さを変えます。それそれぞれに対応できるよう3B～2号程度までが入ったセットを購入しましょう。

偏光サングラス **1つ**

川底はもちろん、目印のウキも見やすくなる偏光タイプを用意しよう。

エサ **イクラ ブドウ虫、ミズミズなどを1パック**

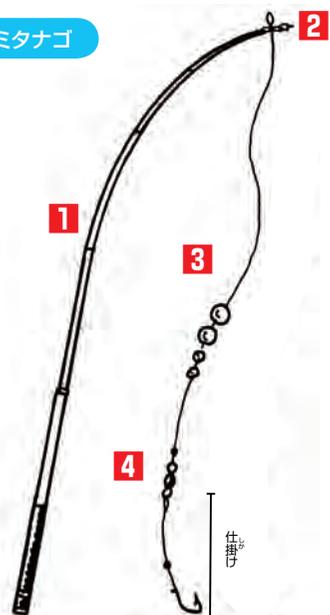
定番のイクラとブドウ虫。濁り水で威力を発揮するのがミズミズです。

## ★釣るための準備

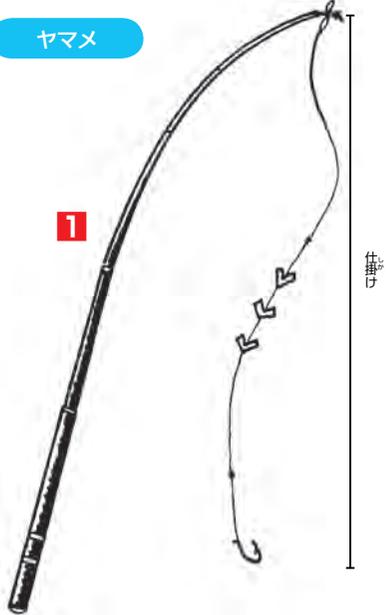
### 【釣具のセッティング】1～4の順でセットしよう

基本的に、振り出し、小継ぎとも、ロッドをつなぎ、仕掛けを穂先に結びます。  
なお、穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱きましょう!

ウミタナゴ

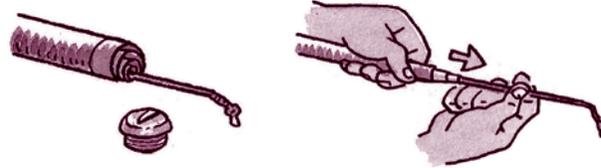


ヤマメ



## 1 ロッドを組み立てる

振り出し竿



ロッドを伸ばすときは…

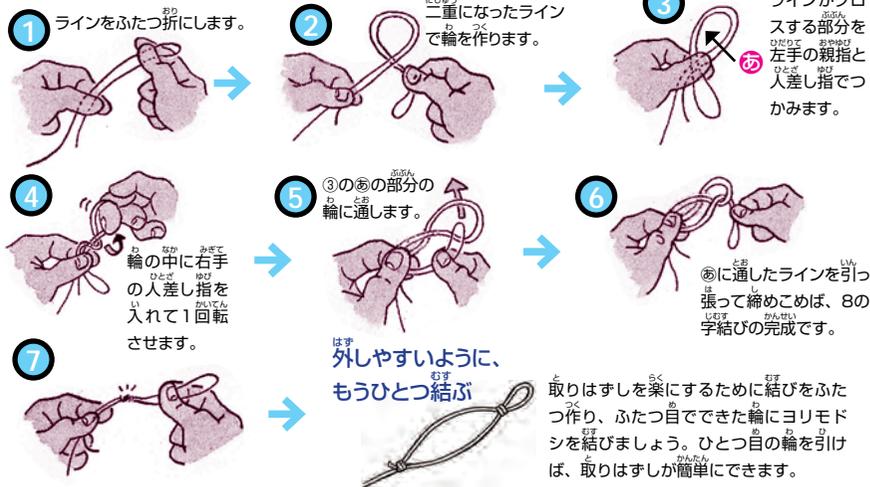
ロッドの先端にあるキャップを外し、竿尻を持ち上げるようにして穂先から出します。穂先は柔らかくデリケートな構造になっているので、必ずまっすぐ引き出しましょう。節と節の継ぎ目は軽くひねって引きながらしっかり止めます。

ロッドをしまう場合は…

元竿の方から順に、節と節をひねって入れていき、最後にキャップを閉めます。

## 2 穂先に道糸または仕掛けの先端を結ぶ

① 道糸で8の字結びを作る

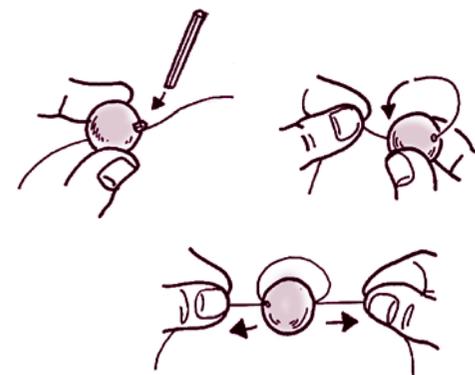


取りはずしを楽にするために結びをふたつ作り、ふたつ目でできた輪にヨリモドシを結びましょう。ひとつ目の輪を引けば、取りはずしが簡単にできます。

② 振り出し竿や継ぎ竿の穂先にあるリリアンにチチ輪で結ぶ

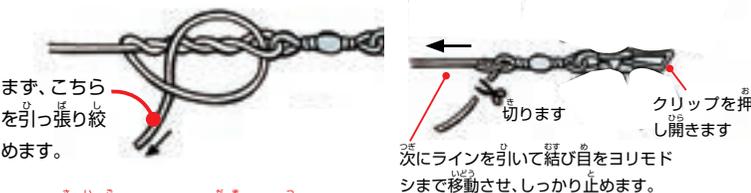


## 3 シモリウキをセット



仕掛けが自然な形で水面から水中に入るシモリウキは、魚も警戒心なくエサを捕食します。ポピュラーなセット方は、ヨウジを差し込んで止める方法で、道糸を1周通して止める方法もあります。ちなみに最初にセットする位置は、ヨリモドシの50～60cm上で、そこからタナを探り始めます。

## 4 ヨリモドシに道糸、仕掛けを結ぶ



◆最後にガン玉を付ける



直接ラインにはさんでもかまいませんが、ラインを保護するためにティッシュを巻き付けることをオススメします。なお、通常はヨリモドシの上にセットします。

※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!

仕掛けの投入

●送り込みで仕掛けをポイントへ入れましょう

ここでは、安定した軌道で仕掛けが前方に進む、「送り込み」を紹介し、仕掛けを狙った場所に落とすやすい万能竿の基本となりますので、しっかりマスターしましょう。  
 なお、投入時は、周りに人がいないことを確認。安全に行いましょう！



イラストのように、利き手でロッドを持ち、反対の手でハリ上を持ちます。穂先が曲がる程度に仕掛けをつかまします。

竿先が水面と平行になるように構えたら、仕掛けを放します。

竿の反発力を使い、腕を伸ばして穂先を持ち上げ、前方に仕掛けを送りだします。ハリが水面に着かないよう注意しましょう。

仕掛けを落としたい場所の直前で、軽く穂先を跳ね上げ、元に戻すと、ハリがウキの前にでます。これを利用して糸絡みを防ぎながら着水させます。

**※かたづけ上手は、釣り上手！**  
 返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日前日まではお手入れをし、元通りに梱包しましょう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れてください。

**ロッドをたたむ場合は…**

バッド部の継ぎ目から順に外して行きます。ジョイント部がキツク締まっている場合は、継ぎ目の部分を持ち、雑巾を絞るようにネジリながら引くとうまく抜けます。くれぐれも先端を持って外さないこと。穂先が折れるので要注意です!

★釣り方のコツ：ウミタナゴ、サヨリ編

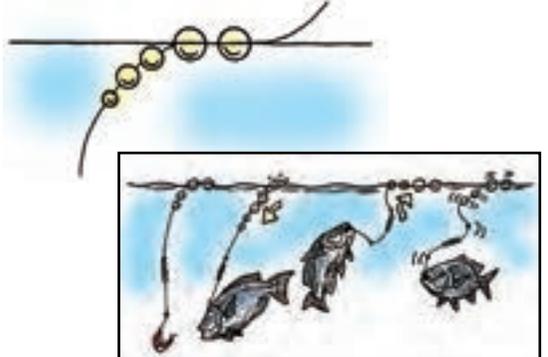
コマセで魚を寄せて確認！  
 ウキ下を浅くして手返し良く勝負!!

ウミタナゴはコマセに良く反応するので、まずはコマセを使って魚を寄せましょう。魚が水面下に見えたら、仕掛けの投入です。ウキ下1m前後の浅ダナから探り出すのがセオリー。イラストのように、付けエサの位置でコマセが拡散するよう、潮の流れを考慮して潮上にコマセを打ちます。そして徐々にタナを上げて手返し良く釣り続けましょう。  
 ちなみに、魚がいない場合は移動して、効率良く釣りを進めましょう。



★ポイントはココ  
 海藻類が多い岩礁帯に群れをなすウミタナゴ。回遊魚のサヨリ。いずれも潮が通る堤防の先端がベストポイントで、地形に変化がある場所も狙い目となります。

シモリウキの浮力調整とアタリ



道糸にシモリウキを7~8cm間隔で4~5個セット。すべてのウキの浮力より、オモリを多少重めに付けるのがポイントで、水面にウキが2~3個ほど浮いているように調整します。  
 アタリは、ウキ同士の間隔の変化を捕えます。ウキがブレたり、浮上したら、すかさずアワセを入れて、パッチリ仕留めましょう。

エサのつけ方

ハリのフトコロにそって、丸めるようにチモトまで刺し込みます。また小さめのオキアミを使っても問題ありません。

コマセは…

アミエビ1ブロックに、メジナ用の配合エサを半袋入れ、海水を入れて混ぜます。ひしゃくを考慮し水分調整しましょう。



★釣り方のコツ：イワナ、ヤマメ編

流れの底をオモリで  
 トレースして  
 エサを漂わす!!



好奇心旺盛ながら、警戒心が実に強い。足音が聞こえるだけで姿を隠してしまうのが、管理釣り場とは違う自然界のイワナやヤマメです。ポイントに近づく時は、忍者的ように気配を消して、影が水面に映らないよう工夫して寄りましょう。

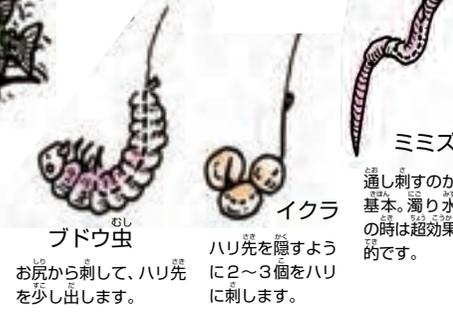
この魚たちを攻略するには、川底を中心に攻めるのがイチバンです。ガン玉を底に転がすイメージで、ポイントの上流側からエサを流せば、一発で食いついてきます。なお、相手が臆病なだけに、細い糸を使うほど有利となります。下流から上流に釣り歩くスタイルでポイントをひとつずつチェックしましょう!!

速い流れのワキから攻めよう!!



川の流芯と弱く流れの境目付近の筋で魚は良くエサを捕食します。まずは流芯のキワから攻めましょう。なお、その場所に底岩があれば、さらに好ポイント。大型の魚が隠れている確率が高いので入念に探りましょう。

エサ&エサ付け



目印をよくチェック  
 手首を返して素早くアワセる



アタリは目印のブレでわかります。大きく引き込まれるのはもちろん、一瞬、上にかかるなど不自然な動きを見せたら食いついた証拠。手首を素早く返して即アワセましょう。

※イワナやヤマメが釣れる渓流には、入漁料制度と禁漁期間（一般的に10~2月）があります。釣行する場合は、その川がある市町村や漁協に確認して、ルールを守りましょう。